

## シカの侵入リスク低減に向けた防護柵 —ブロックタイプフェンス—

森林整備センター 関東整備局

### 【概要】

シカによる食害が発生している地域で森林を造成する場合、通常、植栽予定地の外周を囲む形で防護柵を設置しますが、柵にシカが絡まって破損するケースが少なくありません。このため、水源林造成事業において、所内の研究者の助言を得て、既存の獣道を残置し、複数の区画に分割して柵を設置するなどにより、シカの侵入リスクの低減を図る実証的な事業を進めています。

### はじめに

森林整備センターでは、奥地水源地域において森林を造成していますが、シカが相当程度生息している地域では、植栽した苗木の食害を防止するための防護柵の設置が欠かされません。

しかしながら、防護柵の設置後にその一部が破損して、シカが侵入するケースがみられます。このため、所内の研究者の助言の下、山梨県南部町において、柵の破損によるシカ侵入のリス

ク低減を目的とした小面積の防護柵（ブロックタイプフェンス）による実証的な事業を進めています。

### 実証的な取組

防護柵は、植栽予定地の外周に設置するのが一般的ですが、長く連続する形となると、シカが通行可能な箇所を探して柵に絡まり破損することが少なくありません（写真1）。

このため、シカの移動を過度に妨げないように使用頻度の高い既存の獣道を残置し、その両側に柵を設置することとしました。また、周囲の森林からの落枝等による柵の破損（写真2）を回避するため、設置のラインを隣接木から3m内側としました。こうしたことで、防護柵に囲まれる区画が複数に分割され、一部の柵が破損しても被害が全域に及ばないという効果もあります。柵の延長が長くなり初期投資が掛かり増しとなるものの、柵の補修や食害による改植のリスクが低減することが期待されます（図1）。

### これまでの成果

防護柵の設置後、センサーカメラを用いてモニタリングを行っていますが、半年の間に、防護柵の間に残された獣道をシカが頻繁に通過していることが確認され（写真3）、柵の破損は生じていません。また、クマ、カモシカ、アナグマ等も獣道で確認されており、移動ルートとしての機能も認められました。今後、これらのデータを集積し、効果を検証していく予定です。

### （注1） 改植

苗木の多くが被害を受け枯死したときなどに、その区域全体を植え直すこと。

# 森林（もり）を

**ブロックディフェンス**  
 (獣道を残置し、破損しやすい箇所を避けた防護柵)

シカによるネット破損のリスクや一部破損した場合の被害リスクの低減を期待

周囲の立木から離し、落枝等による柵破損を回避



**従来のゾーンディフェンス**  
 (植栽地の形状に合わせた防護柵)

ネット破損の可能性が高く、一部が破損すれば、全域に被害発生

隣接する立木に接近

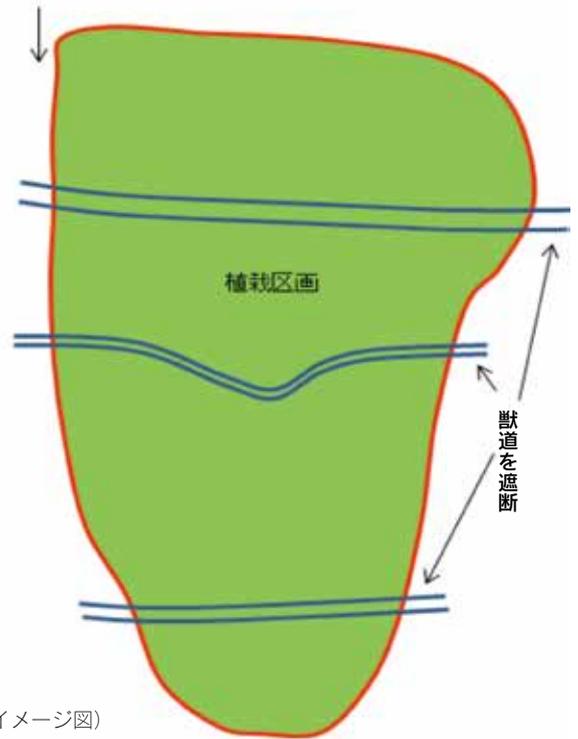


図1 リスク低減型シカ防護柵 (イメージ図)  
 (赤線が防護柵)



写真3 残置した獣道をシカが通行



写真1 シカがネットに絡まり破損



写真2 落枝等による破損

＜お詫びと訂正＞  
 30号の24ページに一部誤りがありましたので、お詫びして訂正します。  
 (誤)・・・新たに王子木材緑化株式会社も協定に加入し・・・  
 (正)・・・新たに王子木材緑化株式会社、日本製紙株式会社及び日本製紙木材株式会社も協定に加入し・・・